

1. 令和6年度 学校関係者評価アンケートの集計結果概要

令和6年11月29日(金)～令和6年12月16日(月) アンケート実施

- ・保護者「すぐーる」にて児童数360名で配信 回収246枚 回収率68.3%
- ・地域配布数 30枚 回収20枚 回収率66.6%
- ・児童在籍数 113人 実施106人 回収率93.8%

回答は、A:とても思う B:思う C:あまり思わない D:思わない E:分からない と分類する。

以下アンケート結果分析についてA+B評価が70%を超えている項目は概ね良好とした。

2. 保護者各項目の分析について

【世田谷区共通保護者アンケート項目】

1. 学習指導について

(1)	本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。
(2)	本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。
(3)	本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。
(4)	本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。

(1) A+B 評価が80%で昨年度より13ポイントマイナスであるが概ね良好な結果である。本校は子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。

(2) A+B 評価が60%で良い評価と言えないが、タブレット導入によりプリント・黒板の活用が減っていると考察する。

(3) A+B 評価が86%で良好な結果である。本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。

(4) A+B 評価が72%であり概ね良好な結果である。本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。

2. 生活指導について

(1)	本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。
(2)	本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。

(1) A+B 評価が79%で概ね良好な結果である。学校の過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。

(2) A+B 評価が81%良好な結果である。教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。

3. 学校行事(運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事)について

(1)	学校行事は、子どもにとって楽しい。
(2)	学校行事は、子どもにとって達成感がある。
(3)	本校は、子どもの意欲を大切にしている。

(1) (2) ともに A+B 評価が95%を超えており大変良好な結果である。学校行事は、子どもにとって楽しく、達成感がある。

(3) A+B 評価が88%で良好な結果である。本校は子どもの意欲を大切にしている。

4. キャリア教育について

(1)	本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。
(2)	本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。

(1) A+B 評価が 66%、E 評価が 17% (2) A+B 評価が 56%、E 評価が 25%で低評価である。

本校ではキャリアパスポート、出前授業等の活用をしているものの保護者の理解度は低い。

5. 教職員について

(1)	本校は、丁寧に指導している。
(2)	本校は、子どものことを相談しやすい。

(1) (2) ともに A+B 評価が 82% で良好な結果である。本校は、丁寧に指導し、子どものことを相談しやすい。

6. 全般について

(1)	本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。
(2)	子どもは、家庭で自主的に学習をしている。
(3)	本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。
(4)	本校の教育活動に満足している。
(5)	子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。

(1) A+B 評価が 89% で良好な結果である。本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。

(2) A+B 評価が 60% で低評価である。家庭学習の習慣付けに課題がある。

(3) A+B 評価が 45% で低評価である。学び舎の活動に関しては毎年低評価であり小・中学校の更なる連携を要す。

(4) A+B 評価が 83% で良好な結果である。保護者は本校の教育活動に満足している。

(5) A+B 評価が 77% 概ね良好な結果である。子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。

7. 学校からの情報提供について

(1)	本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。
(2)	「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている。
(3)	本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。
(4)	本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。

(1) A+B 評価が 94% で大変良好な結果である。本校は、様々な便りなどで保護者に情報を提供している。

(2) A+B 評価が 27% で低評価である。E 評価が 35% であり、「学び舎」活動の認知度は低い。情報提供は工夫を要す。

(3) A+B 評価が 94% で大変良好な結果である。本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。

(4) A+B 評価が 91% で良好な結果である。本校は、ホームページや「すぐーる」などで、保護者に情報を提供している。

8. 学校運営について

(1)	本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。
(2)	校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。

(1) A+B 評価が 79% で概ね良好な結果である。保護者に学校の重点目標を伝えている。

(2) A+B 評価が 90% 良好的な結果である。校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。

9. 家庭と学校との連携について

(1)	私は、学校公開にすすんで参加している。
(2)	私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。
(3)	私は、今年度の学校重点目標を理解している。

- (1) A+B 評価が 84%で良好な結果である。保護者は、学校公開にすすんで参加している。
(2) A+B 評価が 69%でやや低評価である。PTA 活動について昨今は色々な考え方があるので評価は難しい。
(3) A+B 評価が 50%で低評価である。本校は保護者に学校の重点目標を伝えているが、半数の保護者は学校の重点目標を理解していない。本校ホームページ校長挨拶に重点目標が掲載されているので閲覧を促し、周知を図る。

10. 地域との連携について

(1)	本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。
(2)	本校は、地域の活動などに協力的である。
(3)	本校は、地域に情報を提供している。

- (1) (2) ともに A+B 評価が 70%以上で概ね良好な結果である。本校は、地域の人や施設を教育活動に生かし、地域の活動などに協力的である。
(3) A+B 評価が 60%であるが、地域からは十分情報を得られていると評価されている。

11. 学校の安全性について

(1)	本校は、安全な学校づくりを進めている。
(2)	本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。
(3)	本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。

- (1) A+B 評価が 79%で概ね良好な結果である。本校は、安全な学校づくりを進めている。
(2) A+B 評価が 94%で良好な結果である。本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。
(3) A+B 評価が 85%で良好な結果である。本校は、自然災害の対応を子どもや保護者に提供している。

【山崎小独自アンケート項目】

12. 基本的な生活習慣・健康な体について

(1)	お子さんは、自分からあいさつをしている。
(2)	お子さんは、話している人を見て話を聞いている。
(3)	お子さんは、毎晩決まった時刻に寝る等、睡眠をしっかりとっている。
(4)	お子さんは、好き嫌いなく食べようとしている。
(5)	お子さんは、進んで外遊びをしている。

- (1) (2) ともに A+B 評価が 77%で概ね良好な結果である。お子さんは、自分からあいさつをし、話している人を見て話を聞いている。
(3) A+B 評価が 79%で概ね良好な結果である。お子さんは毎晩決まった時刻に寝る等、睡眠をしっかりとっている。
(4) A+B 評価が 62%でお子さんの食べ物の好き嫌いについては低評価である。
(5) A+B 評価が 64%でお子さんの外遊びについては低評価である。

13. 特色ある教育活動について

(1)	舟形交流学習は、子どもたちの成長に役立っている。
(2)	紙すき体験を、子どもたちは楽しんでいる。
(3)	山崎太鼓は、子どもたちの成長に役立っている。

(1) A+B 評価が 85%で良好な結果である。舟形交流学習は、子どもたちの成長に役立っている。

(2) A+B 評価が 94%で大変良好な結果である。紙すき体験を子どもたちは楽しんでいる。

(3) A+B 評価が 87%で良好な結果である。山崎太鼓は、子どもたちの成長に役立っている。

保護者の評価を平均すると、肯定的な評価が多い。ただし、学年ごとの評価を見ると、1～4年生の保護者の評価については、「分からない」の回答が30%程度あるものもあった。来年度以降、「舟形交流学習」は、舟形小学校との2校交流の第三期舟形交流として新たな活動の形を迎える。よって、ますます保護者の協力が重要になる。「山崎三本柱」の活動は、学年を問わず、繰り返し広く保護者に伝え、理解を深めていくことが必要である。

14. 言葉に関する環境について

(1)	子どもたちは、学校や家庭で読書に親しんでいる。
(2)	子どもたちは、自分の思いや考えを話したり書いたりして伝えている。

(1) A+B 評価が 71%で概ね良好な結果である。子どもたちは、学校や家庭で、読書に親しんでいる。

(2) A+B 評価が 76%で概ね良好な結果である。子どもたちは、自分の思いや考えを話したり、書いたりして伝えている。

3. 地域各項目の分析

1. 生活指導について

(1)	通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。
(2)	通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。

2. 学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事）について

(1)	学校行事の内容は充実している。
(2)	学校行事の内容は充実している。

(1) A+B 評価が 100%であり大変良好な結果である。学校行事の内容は、充実している。

(2) A+B 評価が 90%で良好な結果である。事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある。

3. 学校からの情報提供について

(1)	学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。
(2)	「学び舎」の活動について、情報が提供されている。
(3)	学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。
(4)	学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。

(1) A+B 評価が 100%で大変良好な結果である。学校からのお知らせなどにより、学校の様子が分かる。

(2) A+B 評価が 75%で概ね良好な結果である。「学び舎」の活動について、情報が提供されている。

(3) A+B 評価が 95%で大変良好な結果である。学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。

(4) A+B 評価 80%で良好な結果である。学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。

4. 学校運営について

(1)	学校の重点目標が明確である。
(2)	地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。

(1) A+B 評価が 95%で大変良好な結果である。学校の重点目標は明確である。

(2) A+B 評価が 80%で良好な結果である。地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している。

5. 地域との連携について

(1)	地域の人や施設を教育活動に活かしている。
(2)	学校協議会や同学校協議会が役割を果たしている。
(3)	学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。

(1) A+B 評価が 85%で良好な結果である。地域の人や施設を教育活動に生かしている。

(2) A+B 評価が 60%で昨年度より 20 ポイント改善しているものの低評価ある。

(3) A+B 評価が 65%で昨年度より 10 ポイント改善されているものの低評価である。学校協議会・同学校協議会は、コロナ禍以降開催されておらず低評価でもやむなしと考える。

6. 学校の安全性について

(1)	学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。
(2)	学校は、安全性を高めようと地域と協力している。

(1) A+B 評価 95%で大変良好な結果である。学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。

(2) A+B 評価が 90%で良好な結果である。学校は、安全性を高めようと地域と協力している。

4. 児童各項目の分析

1. 学習指導について

(1)	学ぶことが楽しい
(2)	先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。
(3)	本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。
(4)	授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。
(5)	先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。

(1) A+B 評価が 88%で良好な結果である。本校児童は学ぶことが楽しいと感じている。

(2) A+B 評価が 94%で大変良好な結果である。本校教員は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。

(3) A+B 評価が 90%で良好な結果である。本校教員は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。

(4) A+B 評価 98%で大変良好な結果である。授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある。

(5) A+B 評価が 97%で大変良好な結果ある。本校教員は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。

2. 生活指導について

(1)	私は、学校のきまりを守って、行動している。
(2)	学校のきまりを守らない児童に先生は注意している。
(3)	先生に注意されたことは、理解できる。

(1) A+B 評価が 89%で良好な結果である。本校児童は、学校の決まりを守って、行動している。

(2) A+B 評価が 92%で良好な結果である。学校の決まりを守らない児童に本校教員は注意している。

(3) A+B 評価が 91%良好な結果である。本校児童は、先生に注意されたことを理解している。

3. 学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事）について

(1)	学校行事は楽しい。
(2)	学校行事は達成感がある。
(3)	先生は、児童の意欲を大切にしている。

(1) A+B評価が98%で大変良好な結果である。ほとんどの児童が学校行事を楽しいと思っている。

(2) A+B評価が94%で大変良好な結果である。ほとんどの児童が学校行事に達成感がある。

(3) A+B評価89%で良好な結果である。本校教員は、児童の意欲を大切にしている。

4. キャリア教育について

(1)	自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。
(2)	目標をもち、その実現に向けて努力している。
(3)	区立中学校に関する情報が提供されている。

(1) A+B評価が83%で良好な結果である。自分の生き方や将来のことについて考える授業がある。

(2) A+B評価が87%で良好な結果ある。本校児童は目標をもち、その実現に向けて努力をしている。

(3) A+B評価が56%で低評価ある。教員の工夫等により区立中学についての更なる情報発信を期待する。

5. 先生について

(1)	先生たちは、ていねいに指導してくれる。
(2)	先生たちに相談できる。

(1) A+B評価が97%で大変良好な結果である。本校教員はていねいに指導している。

(2) A+B評価が80%で良好な結果である。本校児童は、教員に相談できている。

6. 全般について

(1)	学校生活は楽しい。
(2)	学校が好き。
(3)	私は、家庭で宿題やe-ラーニングでの学習をしている。
(4)	私は、塾で学習している
(5)	学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。

(1) A+B評価が95% (2) A+B評価が90%で良好な結果である。本校児童のほとんどが学校生活は楽しいと感じ、学校が好きと回答しており好ましい結果である。

(3) A+B評価が69%で低評価である。家庭での宿題やe-ラーニングでの学習には課題がある。

(4) A+B評価が72%で児童の7割強が塾に通っている。

(5) A+B評価が65%で昨年度より28ポイント改善されたがまだ低評価である。中学校と連携をはかり交流機会の増加を望む。

7. 基本的な生活習慣・健康な体について

(1)	私は、自分からあいさつをしている。
(2)	私は、話している人を見て話を聞いている。
(3)	私は、毎晩決まった時刻に寝る等、睡眠をしっかりとっている。
(4)	私は、好き嫌いなく食べようとしている。
(5)	私は、進んで外遊びをしている。

- (1) A+B 評価が 87%で良好な結果である。本校児童は、自分からあいさつをしている。
(2) A+B 評価が 97%で大変良好な結果である。本校児童は話している人を見て話を聞いている。
(3) A+B 評価が 64%で低評価である。4割弱の児童は毎晩決まった時刻に寝る等、睡眠をしっかりとれていない。家庭での習慣づけを望む。
(4) A+B 評価が 76%で概ね良好な結果である。本校児童は、好き嫌いなく食べようとしている。
(5) A+B 評価が 59%である。健康の保持・増進を考えると改善を望む。

8. 特色ある教育活動について

(1)	舟形交流学習は、自分の成長に役立っている。
(2)	紙すき体験を楽しんでいる。
(3)	山崎太鼓の活動は、自分の成長に役立っている。

- (1) A+B 評価が 95%で大変良好な結果である。舟形交流学習は本校児童の成長に役立っている。
(2) A+B 評価が 93%で良好な結果である。本校児童は、紙すき体験を楽しんでいる。
(3) A+B 評価が 78%で概ね良好な結果である。6年生の A+B 評価は 96%で良好な結果である。山崎太鼓の活動は成長に役立っている。5年生の A+B 評価は 57%。E 評価は 38%であった。

9. 言葉に関する環境について

(1)	私は、学校や家庭で読書に親しんでいる。
(2)	私は、自分の思いや考えを話したり、書いたりして伝えている。

- (1) A+B 評価が 69%でやや低評価である。7割弱の本校児童は、学校や家庭で読書に親しんでいる。
(2) A+B 評価 83%で良好な結果である。本校児童は、自分の思いや考えを話したり、書いたりして伝えている。

5. 総評

今年度のアンケート調査は、保護者・地域・児童とも良好な結果である。保護者アンケート 43 項目中 C+D 評価が 30%以上は 5 項目。そのうち 3 項目《6 (2)、12 (4)、12 (5)》は家庭教育に関する項目。その他は学び舎の情報《7 (2)》、学校の重点目標《9 (3)》についての 2 項目である。

本校の教育に関する低評価項目はほとんど無い。学習指導・生活指導等、教員に対する評価は総じて良好な結果である。

また学校行事・情報提供・学校の安全性についても高評価である。地域・児童もほぼ同様の傾向で良好な結果である。

今年度は、本校独自のアンケート項目を児童と保護者で質問内容を合わせて、児童と保護者の意識が同じなのか、違っているのかを確認してみた。アンケート結果を見ると、児童と保護者の回答傾向が概ね同じ傾向が見られた。同じ傾向が見られたことから、保護者は、児童の学校生活の様子を把握し、児童は、保護者に学校生活のことを話題にコミュニケーションをとっていることが推察される。

引き続き、山崎小学校は保護者から、児童の学校生活に興味関心をもって、本校の教育活動にご理解とご協力をいただけるよう努力をしていただきたい。

本校の教育目標は、

「思いやりのある子ども」「たくましい子ども」「よく考える子ども」の育成である。

教育目標を受けて本校は、重点目標を、

・人を大切にする心、物を大切にする心をもって行動する子を育てる

・主体的に健康な体をつくる子を育てる

・よく考えて表現する子を育てる

と設定している。

今回の学校関係者評価アンケート結果を受けて、授業、学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事）、特色ある教育活動（舟形交流学習・紙すき体験・山崎太鼓）等をとおして、具現化が図られているのではないかと評価する。また、本校は保護者の理解もあり、地域からの信頼も厚い。引き続き校長のリーダーシップのもと、児童が、楽しい学校生活を送り、充実した日々が過ごせるよう学校運営がすすむことを望む。

6. 参考

1. 地域運営学校

世田谷区立全小中学校が指定されている。学校と地域の連携をより一層充実させ、地域と共に子どもを育てる教育を推進し、地域防災や地域行事など、学校・家庭・地域の連携・協働による取組みを一層充実するなど、地域コミュニティの核としての学校づくりをすることを目的としている。

2. 学校運営委員会

地域運営学校では、地域の方や保護者、学識経験者、卒業生からなる学校運営委員会を組織し、地域に根ざした学校づくりをねらいとした学校運営をすることを目的としている。

3. 世田谷社の学び舎

世田谷9年教育の柱のひとつで近隣の世田谷区立小中学校で「学び舎」を構成し、より一体となって地域の教育力と特色を活かして教育活動や学校運営を進めることを目的としている。本校は世田谷中学校・城山小学校・若林小学校で「世田谷社の学び舎」を構成している。

4. 学校協議会

学校と家庭・地域並びに関係諸機関と連携と協力を一層強化することを目的として、学校協議会を設置し、地域の協力を得ながら児童・生徒の健全育成、地域防災・防犯、教育活動の充実に取組んでいる。

校長・副校長・主幹教諭・主任教諭・PTA会長・PTA役員・主任児童委員・民生委員・児童委員・青少年委員・保護司・町会長・自治会長等で構成されている。

5. 合同学校協議会

学び舎単位の学校協議会

6. キャリア教育

我が国において「キャリア教育」という文言が公的に登場し、その必要性が提唱されたのは、平成11年12月、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」においてであった。同審議会は「キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」とし、さらに

「キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、学校ごとに目的を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある」と提言している。この答申を受け、キャリア教育に関する調査研究が進められ、平成14年11月には、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」を報告した。同調査研究報告書は、子どもたちの進路・発達をめぐる環境の変化について、数々のデータを基に分析し、「職業観・勤労観の育成が不可欠な『時代』を迎えた」とし、さらに、学校段階における職業的（進路）発達課題について解説するとともに、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」を示した。一方、学校における教育活動が、ともすれば「生きること」や「働くこと」と疎遠になったり、十分な取組が行われてこなかつたりしたのではないかとの指摘も踏まえ、同年、文部科学省内に「キャ

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」を設置し、平成16年1月には、その報告書「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」を発表した。この間、国は、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、経済財政政策担当大臣の関係4閣僚による「若者自立・挑戦戦略会議」が、平成15年6月に「若者自立・挑戦プラン」を策定し、目指すべき社会として、「若者が自らの可能性を高め、挑戦し、活躍できる夢のある社会」と「生涯にわたり、自立的な能力向上・発揮ができる、やり直しがきく社会」をあげ、政府、地方自治体、教育界、産業界が一体となった取組が必要であるとした。キャリア教育の推進は、その重要な柱として位置付けられた。その後平成18年には、内閣官房長官、農林水産大臣、少子化・男女共同参画担当大臣も加え、「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン(改訂)」が策定され、キャリア教育のさらなる充実を図ることとした。